

# FRB、政策金利の引き上げを決定

## ポイント① FRB、0.25%の利上げを決定

FRB（米連邦準備制度理事会）は、3月15-16日に開催されたFOMC（米連邦公開市場委員会）にて、FF（フェデラルファンド）金利の誘導目標を、0～0.25%から0.25～0.50%へ引き上げることと決定しました。パウエルFRB議長は、今回の利上げについて、「米国経済は極めて力強く、金融引き締めに対応する態勢が整っていること」を指摘した上で、「インフレにさらなる上向き圧力がかかるリスクを抑制すること」を引き上げの背景としました。また、約9兆米ドルにまで拡大したバランスシートに関しては、次回5月のFOMCにて、その詳細が決定する可能性を示唆しました。

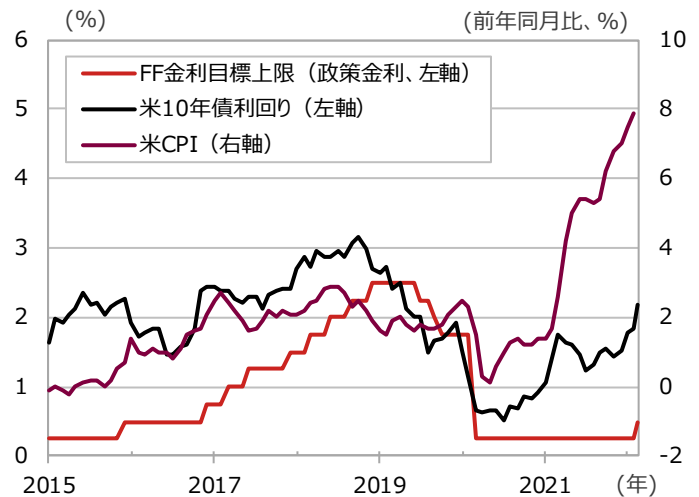
## ポイント② 年内全てのFOMCで、利上げ実施か

ただ一方で、FOMC参加者の経済見通しによると、2022年末の実質GDPが、12月時点の見通しから大幅に下方修正されました。背景には、足元で緊迫化が続くウクライナ情勢が、さらなる物価上昇圧力となり、経済活動の重しになることへの警戒があるようで、FRBは同問題に対し、政策修正を「機敏に」進める意向を示した上で、「インフレ抑制のために必要であれば、今後の会合でより積極的な利上げを行なう」姿勢を表明しました。現に2022年末のFF金利の見通しについては、年内残りの全6回のFOMCにて、それぞれ0.25%の追加利上げが実施され、1.75～2.00%（右下図では中央値の1.9%）となると見込まれています。

## ポイント③ FOMC後、米国債利回りは上昇

市場では、FOMCを受けて、「想定よりもFRBのタカ派色が強い」との見方が広がったことで、金融政策の影響を受けやすい中期債を中心に、米国債利回りは上昇しました。

米国の政策金利・10年債利回り・CPI（消費者物価指数）の推移



期間：2015年1月末～2022年3月16日、月次  
(CPIは2015年1月～2022年2月、月次)  
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

## FOMC参加者の経済見通し

(単位、%)

	予測時点	2022				中長期
		2022	2023	2024		
実質GDP <sup>1</sup>	22年3月	2.8	2.2	2.0	1.8	
	21年12月	4.0	2.2	2.0	1.8	
失業率 <sup>2</sup>	22年3月	3.5	3.5	3.6	4.0	
	21年12月	3.5	3.5	3.5	4.0	
個人消費支出デフレーター(総合) <sup>1</sup>	22年3月	4.3	2.7	2.3	2.0	
	21年12月	2.6	2.3	2.1	2.0	
個人消費支出デフレーター(コア) <sup>1,3</sup>	22年3月	4.1	2.6	2.3		
	21年12月	2.7	2.3	2.1		
FF金利 <sup>4</sup>	22年3月	1.9	2.8	2.8	2.4	
	21年12月	0.9	1.6	2.1	2.5	

(注) 1：第4四半期の前年同期比 2：第4四半期平均値  
3：エネルギー、食品を除く 4：年末または中長期の目標レンジ中央値  
(出所) FRB資料より野村アセットマネジメント作成

**重要イベント**  
3月17日 米鉱工業生産指数 (2月)  
3月31日 米個人所得、米消費支出、米消費支出デフレーター (2月)

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。